



# 平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年2月13日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柳 時機

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部長 (氏名) 安部 一夫

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 平成30年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	12,547	1.1	113	12.8	95	14.5	58	—
29年3月期第3四半期	12,413	△3.4	100	△79.9	83	△82.6	△88	△131.0

(注)包括利益 30年3月期第3四半期 69百万円 (—%) 29年3月期第3四半期 △79百万円 (△127.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	27.28	—
29年3月期第3四半期	△41.58	—

※当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益を算定しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	15,414	6,166	40.0
29年3月期	14,847	6,097	41.1

(参考)自己資本 30年3月期第3四半期 6,166百万円 29年3月期 6,097百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
30年3月期	—	0.00	—		
30年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	16,760	1.3	210	8.8	190	11.1	40	—	18.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期3Q	2,150,434 株	29年3月期	2,150,434 株
② 期末自己株式数	30年3月期3Q	11,942 株	29年3月期	11,792 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期3Q	2,138,589 株	29年3月期3Q	2,138,766 株

※当社は、平成28年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、期末発行済株式数、期末自己株式数及び期中平均株式数を算定しております。

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、従前よりの流れに引き続き穏やかな景気回復基調にあるものの、個人消費におきましては物価の上昇や所得の伸び悩み等により、力強さを欠く状況が続いております。また、東アジアにおける情勢の緊迫化といった海外における政治・経済の不確実性の高まり等により、引き続き不安定な状況となっております。

外食業界におきましては、業種・業態を越えた競争が激化しており、牛肉等の原材料価格が高止まりし、人手不足を主因とする人件費関連コストの上昇、出店や改装に要するコストの上昇と合わせて依然として厳しい経営環境が継続いたしました。

このような環境の下、当社グループは経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様のご要望に合う魅力あふれる「安全・安心」に配慮した商品の提供に加え、おもてなしの心を込めたサービスの提供に努めてまいりました。

また、成長戦略を実現するために、既存店舗の改装を積極的に推進してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高125億47百万円（対前年同期比1.1%増）、営業利益1億13百万円（対前年同期比12.8%増）、経常利益95百万円（対前年同期比14.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益58百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失88百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は190店舗であります。内訳は直営148店舗、暖簾12店舗、FC30店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、折込チラシを中心とした広告宣伝方法の見直しを行い、メルマガとLINE配信等により、販売促進費の適正化をはかりながら、「カナディアンフェア」、「冬のビッグチャンス宝くじ」、「熱アツ！冬グルメフェア」、「2017年最後の肉の日クーポン」等、安楽亭の楽しさを伝えるフェアやランドメニュー改定を行ってまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は103億92百万円（対前年同期比1.5%減）となり、セグメント利益（営業利益）は4億27百万円（対前年同期比29.6%減）となりました。

#### ② 七輪房業態

七輪房業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、開花亭春江店が七輪房業態となり27店舗となりました。内訳は直営24店舗、暖簾1店舗、FC2店舗であります。

販売促進等につきましては、「秋の行楽セット」、「25店舗達成記念大感謝おすすめメニュー25%OFFクーポン祭り」等、メルマガやLINEでの配信を行ってまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は17億53百万円（対前年同期比7.5%増）となり、セグメント利益（営業利益）は1億27百万円（対前年同期比119.2%増）となりました。

#### ③ その他業態

その他業態の当第3四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営4店舗、FC5店舗であります。

なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「国産牛カルビ本舗安楽亭（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「ロンチャン（中華）」、「AGRICOCO（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第3四半期連結累計期間の売上高は4億1百万円（対前年同期比74.7%増）となり、セグメント損失（営業損失）は23百万円（前年同期はセグメント利益11百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ5億66百万円増加し、154億14百万円となりました。これは、新規出店及び既存店の改装による有形固定資産の増加等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ4億97百万円増加し、92億47百万円となりました。これは、新規出店及び既存店の改装資金としての借入金の増加及び長期割賦未払金の増加等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ68百万円増加し、61億66百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、第3四半期連結累計期間における進捗状況等を踏まえ、平成29年5月12日に公表いたしました業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(平成30年2月13日)公表いたしました「業績予想(連結・個別)の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,436,829	2,346,646
受取手形及び売掛金	355,798	386,726
商品及び製品	131,588	170,534
仕掛品	738	1,883
原材料及び貯蔵品	633,292	618,772
前払費用	209,303	211,671
繰延税金資産	85,685	79,389
その他	56,768	139,454
貸倒引当金	△745	△313
流動資産合計	3,909,259	3,954,764
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,753,693	2,985,755
機械装置及び運搬具(純額)	99,925	92,569
工具、器具及び備品(純額)	325,201	401,113
土地	5,004,097	5,004,097
リース資産(純額)	93,457	64,259
建設仮勘定	2,551	2,255
有形固定資産合計	8,278,926	8,550,051
無形固定資産		
のれん	—	57,863
その他	127,200	133,170
無形固定資産合計	127,200	191,034
投資その他の資産		
投資有価証券	117,192	133,341
長期貸付金	6,819	6,515
長期前払費用	18,308	21,938
繰延税金資産	32,307	35,837
敷金及び保証金	2,328,021	2,508,102
その他	55,823	38,958
貸倒引当金	△26,455	△26,303
投資その他の資産合計	2,532,019	2,718,391
固定資産合計	10,938,146	11,459,478
資産合計	14,847,406	15,414,242

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	592,989	703,340
短期借入金	768,108	884,064
リース債務	43,312	40,802
割賦未払金	142,260	187,932
未払金	209,985	197,901
設備関係未払金	73,867	73,207
未払費用	496,854	499,297
未払法人税等	140,594	42,882
未払消費税等	67,100	78,851
賞与引当金	82,300	42,810
転貸損失引当金	13,297	13,297
その他	342,893	531,370
流動負債合計	2,973,565	3,295,756
固定負債		
長期借入金	4,471,527	4,508,817
リース債務	57,588	26,987
長期割賦未払金	454,988	604,831
繰延税金負債	103,935	105,391
役員退職慰労引当金	335,491	347,483
転貸損失引当金	62,727	52,755
退職給付に係る負債	202,115	212,885
その他	88,034	93,034
固定負債合計	5,776,408	5,952,185
負債合計	8,749,974	9,247,941
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,537,261	2,537,261
利益剰余金	449,883	508,233
自己株式	△70,080	△70,787
株主資本合計	6,099,449	6,157,093
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,017	9,207
その他の包括利益累計額合計	△2,017	9,207
純資産合計	6,097,432	6,166,300
負債純資産合計	14,847,406	15,414,242

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	12,413,104	12,547,216
売上原価	4,393,025	4,535,989
売上総利益	8,020,078	8,011,227
販売費及び一般管理費	7,919,734	7,898,056
営業利益	100,344	113,170
営業外収益		
受取利息	1,421	1,481
受取配当金	1,966	1,893
受取地代家賃	7,662	5,426
貸倒引当金戻入額	580	583
その他	40,884	38,854
営業外収益合計	52,514	48,239
営業外費用		
支払利息	60,747	57,414
その他	8,259	8,000
営業外費用合計	69,007	65,415
経常利益	83,851	95,994
特別利益		
固定資産売却益	196	—
受取保険金	30,897	43,490
特別利益合計	31,094	43,490
特別損失		
固定資産売却損	—	243
固定資産除却損	17,036	3,033
減損損失	38,788	6,301
賃貸借契約解約損	5,787	9,153
転貸損失引当金繰入額	33,352	—
訴訟和解金	—	9,000
特別損失合計	94,963	27,732
税金等調整前四半期純利益	19,981	111,752
法人税、住民税及び事業税	64,336	54,106
法人税等調整額	44,568	△704
法人税等合計	108,904	53,401
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△88,923	58,350
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△88,923	58,350



四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△88,923	58,350
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	9,768	11,224
その他の包括利益合計	9,768	11,224
四半期包括利益	△79,154	69,575
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△79,154	69,575

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,551,316	1,632,002	229,785	12,413,104	12,413,104	—	12,413,104
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	10,551,316	1,632,002	229,785	12,413,104	12,413,104	—	12,413,104
セグメント利益	607,526	57,960	11,989	677,476	677,476	△577,132	100,344

(注) 1. セグメント利益の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては38,788千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	その他業態	計			
売上高							
外部顧客への売上高	10,392,062	1,753,776	401,377	12,547,216	12,547,216	—	12,547,216
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	10,392,062	1,753,776	401,377	12,547,216	12,547,216	—	12,547,216
セグメント利益又は 損失(△)	427,796	127,041	△23,094	531,743	531,743	△418,573	113,170

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(注) 2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては6,301千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

「安楽亭業態」セグメントにおいて、日総開発㈱から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては37,666千円であります。

「七輪房業態」セグメントにおいて、日総開発㈱から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては14,721千円であります。

「その他業態」セグメントにおいて、日総開発㈱から1店舗を譲り受けたことにより、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては15,686千円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。